

令和5年度  
「運営に関する計画」

大阪市立十三中学校  
令和5年5月

(様式 2)

大阪市立十三中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を高める。</li><li>年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</li></ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 95%以上にする。 (R4 : 93.1%)</li><li>年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 (R4:31.8%)</li></ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容① 【基本的な方向 1 安心安全な教育環境の実現】</b></p> <p>1－2 不登校への対応</p> <ul style="list-style-type: none"><li>心の不調を予防するプログラムである「こころあっぷタイム（前 1 2 時間）」を導入し、子どものメンタルヘルスの安定化を目指し、不登校に繋がる可能性のある心の不調の予防に努める。</li><li>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、大学等の他の専門家との連携を深め、適宜教職員が指導助言を受けることができる環境整備に努める。</li></ul> <p>指標：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>「こころあっぷタイム」を 1 年生は 4 時間、 2 年生は 6 時間、 3 年生は 1 2 時間実施する。</li></ul> <p style="text-align: right;">〔令和 4 年度未実施〕</p>	
<p><b>取組内容② 【基本的な方向 1 安心安全な教育環境の実現】</b></p> <p>1－3 問題行動への対応</p> <ul style="list-style-type: none"><li>学校規模ポジティブ行動支援の実行度を高め、生徒の望ましい行動を引き出す教職員の関りの充実と安心・安全な学校環境の整備に努める。</li><li>行動目標（ポジティブ行動マトリクス）を作成し、生徒から引き出したい望ましい行動を具体化させ、教職員の共通理解を図る。</li><li>子どもの望ましい行動を引き出すための教職員から生徒への賞賛機会の充実を狙った「友情満開キャンペーン」を実施する。</li></ul>	

指標：

- ・子どもの強さと困難さアンケートを年に2回実施し、困難性総合の下位尺度を学校の平均値が先行研究の平均値（5.78%）よりも下回る。

〔校内調査〕〔令和4年度 5.38%〕

取組内容③【**基本的な方向2 豊かな心の育成**】

2-3 人権を尊重する教育の推進

- ・性の多様性の学習をすべての学年で実施し、LGBTQ+についての理解を深め、生徒が在籍している生徒を自然な形で受け止めることができ、自身の性的思考性や性自認について教員に話せる環境を促進する。

指標：

- ・性の多様性の学習後の振り返りにおいて、各クラスにおいて学習に対する理解や認識を持てたという肯定的な感想を持つ生徒の割合が90.0%以上にする。

〔令和4年度 93.8%〕

取組内容④【**基本的な方向2 豊かな心の育成**】

2-1 道徳教育の推進

- ・答えが一つでない道徳的な課題を一人一人が自分のこととしてとらえ、向き合う、「考え、議論する道徳」の授業を充実させる。

指標：

- ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目を全国平均にする。

〔全国学力・学習状況調査〕〔令和4年度：全国 88.4% 本校 90.3%〕

取組内容⑤【**基本的な方向2 豊かな心の育成**】

2-4 インクルーシブ教育の推進

- ・生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援が提供できるように、通常学級の担当者とくすのき学級の担当者が、個別の支援計画や、指導計画などをもとに、連携をとり学びの確保をする。

指標：

- ・特別支援学級生徒の実態把握のため、年に4回以上特別支援推進委員会を開催する。各学年においては、日々、担任の先生を中心に連携をとっていく。

〔令和4年度 5回〕

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立十三中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を高める。</li><li>中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も向上させる。</li><li>大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル（英検 3 級）相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を向上させる。</li><li>年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を向上させる。</li></ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 全校平均を 30% 以上にする。 (R4 : 1 年生 30.5% 2 年生 29.2% 3 年生 24.1%)</li><li>中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より 0.25 ポイント向上させる。 76 期生 (R4 : 国語 +0.05 数学+3.1) 75 期生 (R4 : 国語 +0.03 数学+0.6)</li><li>大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル（英検 3 級）相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 55% 以上にする。 (R4 : 53.0%)</li><li>年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50% 以上にする。 (R4 : 47.4%)</li></ul>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【<b>基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上</b>】</p> <p>4-1 言語活動・理数教育の充実 言語活動・理数教育を通して思考力・判断力・表現力等の育成に取り組む。</p> <p>指標：1 年生で「リーディングスキルテスト」を実施し、結果について分析し、教員間で課題を共有する。</p>	

<p><b>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>4－2 「主体的・対話的で深い学び」の推進 生徒が「主体的」に参画する「対話的」な学習活動による「深い学び」の実現や、「思考力・判断力・表現力の育成をめざした教科を横断した学習活動など、教員が互いに交流や見学を通して授業力の向上に努める。</p> <p>指標：年に3回教員の相互授業参観を実施する。 〔令和4年度2回実施〕</p>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>4－3 英語教育の強化 ・「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の英語4技能の総合的な育成に取り組む。</p>	
<p>指標：・英検3級相当以上の英語力を有する3年生の割合を40%上げる。</p>	
<p><b>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>4－4 全市共通テスト等の実施と分析・活用 ・3年生実施の「全国学力・学習状況調査」及び全学年実施の「中学生チャレンジテスト」、1年生実施の「大阪市版チャレンジテストplus」の分析をまとめ、具体的な教育活動の改善等を実行する。</p>	
<p>指標： ・「全国学力・学習状況調査」の結果、「中学生チャレンジテスト」大阪市版チャレンジテストplusの結果の分析を教科会で行い、職員連絡会で周知し、結果をまとめて保護者に周知する。</p>	
<p><b>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b></p> <p>5－1 体力・運動能力向上のための取り組みの推進 ・外部の専門家を講師に招き、体力の向上や集団育成を図り、実践していく。 ・部活動と連携を図り、体力、運動能力向上の取り組みを実践し、基礎体力を増進する機会を充実させる。</p>	
<p>指標：【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】 ・「新体力テスト」の結果を分析し、数値目標を掲げ、男女ともに全国平均を上回るようにする。 〔令和4年度総合評価対全国比2年生男子+0.6、女子+2.4〕 ・「全国体力・運動能力、運動習慣等の調査」について、体力合計点の結果を前年度より向上する。 〔令和4年度2年生男子50.6(+10.06)、女子52.4(-0.06)〕 ・「運動やスポーツをすることが好きですか」の肯定的な回答を前年度より向上させ、「1週間の総運動時間」が60分未満の割合を前年度より減少させる。 〔肯定的回答：令和4年度男子88.9%女子77.3%〕 ・外部の専門家による指導を取り入れた授業を年に1回以上実施する。 〔令和4年度3年生1回〕 ・部活動と連携を図り、入部率・継続率をデータ管理し、年度末に分析結果を全職員で共有し、HPに掲載する。 〔令和4年度入部率73%〕</p>	

取組内容⑤ 【**基本的な方向 5 健やかな体の育成**】

5－2 健康教育・食育の推進

親校と連携して食育指導を行い、SDGS の視点を取り入れて健康と食の大切さについての意識を高める。

指標：親校と連携し、年に1回食育週間を設け、食育講話を実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立十三中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>全市共通目標(中学校)</b></p> <p><b>【ICTの活用に関する目標を設定する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>デジタル教材を活用した学習を 5 教科において実施する。</li></ul> <p><b>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1・2 を満たす教員の割合を上げる。</li></ul>	
<p><b>学校の年度目標</b></p> <p><b>【ICTの活用に関する目標を設定する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>デジタル教材を活用した学習を 5 教科において毎月 1 回以上実施する。 (R4 : 22.2%)</li></ul> <p><b>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1・2 を満たす教員の割合の基準 1 を 33% 以上。基準 2 を 53% 以上にする。 (R4 : 基準 1 29.3%。 基準 2 51.2%)</li></ul>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① <b>【基本的な方向 6 教育 DL デジタルトランスフォーメーションの推進】</b></p> <p><b>6-2 データ等の根拠に基づく施策の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>「全国学力・学習状況調査」や「全国体力・運動能力調査」、「心の天気」や「いじめアンケート」等の全市共通の調査について、各担当者が結果を分析し、授業力の改善や生徒の個別最適な学びを推進する。</li></ul> <p>指標 :</p> <p>「全国学力・学習状況調査」、「チャレンジテスト」、「チャレンジテスト plus」の実施後、各担当者が結果を分析し、職員連絡会で結果を全教職員に周知し、進捗状況のデータ管理の割合を 100% にする。</p> <p>[令和 4 年度データ管理 100%]</p>	
<p>取組内容② <b>【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <p><b>7-1 働き方改革の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>ゆとりの日を月に 1 回設定し、年次有給休暇の取得を促す</li></ul> <p>指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"><li>年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 50% 以上にする。</li></ul>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

次年度への改善点